

磁気刺激装置による尿失禁治療について

北里大学病院泌尿器科

■病名、治療の概要、治療機器について

病名：過活動膀胱

治療の概要：

尿失禁を伴う過活動膀胱の患者様に症状改善を目的として治療を行うために、主に骨盤底領域の神経の刺激を行います。

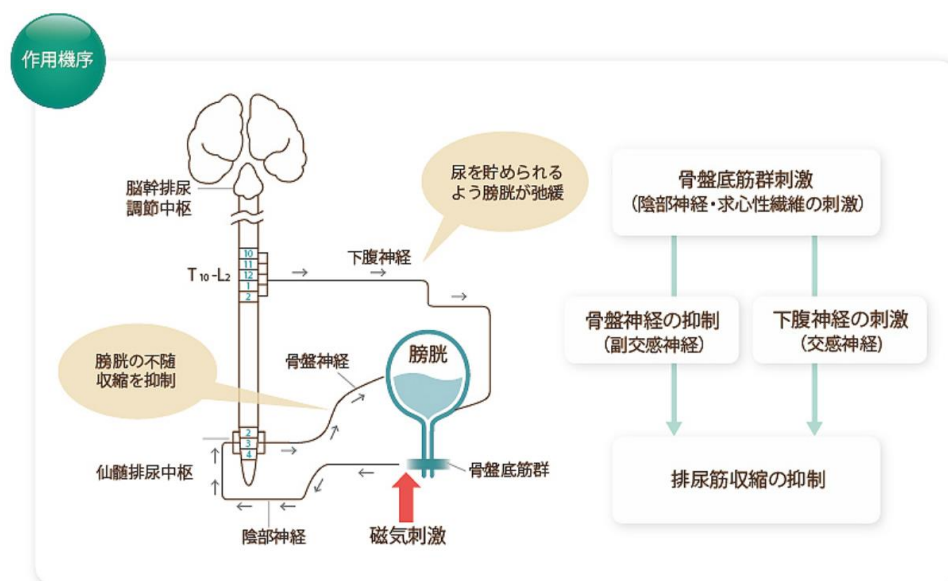


治療器具名：磁気刺激装置（TMU-1100）

■ 磁気刺激装置の原理

椅子型刺激ユニットの前面に刺激コイル・コアを内蔵しており、そこから磁気エネルギーを座面上に出力し、患者様の骨盤底領域の神経（主に陰部神経）を刺激します。

2014年4月より磁気刺激装置による治療が保険収載されました。



■ 磁気刺激装置治療の利点

着衣のまま治療できます。

(今までの電極式ではコードの接着のため脱衣が必要でした。)

座ったままで治療できます。

■ 以下の患者様は、磁気刺激装置治療を受けることが出来ません。

ペースメーカー・除細動器などを埋め込まれている患者様。

腰から下の範囲で、金属インプラントや装具の埋め込み術など（人工膝関節置換術、人工股関節置換術など）を受けたことがある患者様。

腰から下の範囲で、刺青などをお持ちの患者様

尿失禁治療で装具の植え込み手術を受けられた患者様

妊婦の患者様あるいは妊娠の可能性のある患者様

■ 治療の流れ

問診票・パッドテストなどにより治療適応を確認します。

治療時間は1回25分間です。

週2回まで施行出来ます。

6週間まで施行出来ます。（6週間を1クールと数えます）

1クール終了ごとに、問診票・パッドテストなどにより治療効果を確認します。

年2クールまで施行出来ます。

■ 効果の可能性

これまでの治療成績の報告は半数以上の方は効果を実感されておりますが、100%の有効率ではありません。一部には効果が得られない方もいます。その点をご理解ください。